

斤、一益母草一斤、一蒨蓑一斤、一中膝一斤、一商陸一斤、一合歡半斤、一茴香半斤、一防風半斤、一黃栢半斤、一忍冬半斤、一良姜半斤、一薺菴拾兩、一石菖蒲十兩、一山藥十兩、一續隨子半斤、一五味子半斤、一枳殼半斤、一何首半斤、以上五十五味都合七十六斤十兩、

右者禁裏法皇兩御所江御進獻之御藥種、毎年極月中旬、日限差圖有之、所司代江被差上候由、

〔江戸名所圖會十三〕御藥園 同所○白山の西南にあり、所謂白山御殿の舊地是なり、

〔府内備考四十一〕御藥園

御藥園は、白山御殿の舊地なり、初寛永十五年戊寅麻布大塚の兩所に、御藥園をひらかれ、元祿の頃、大塚の御藥園は、麻布へうつされしが、其後又此處に移され、其あづかりは、麻布より引つゞきて、芥川小野寺なり、今は芥川岡田の兩人にてまもれり、芥川の御預地貳萬二千五百五十八坪、岡田の御預り二萬千六百四十二坪といふ、改選江當御藥園二區に分れて、中間一條の往來あり、則南の方は岡田左門利左衛門の子孫なりの御預りにて、御役宅その内にあり、又此内に、施藥院養生所といふを建置る事は下に記す、北の方は、芥川小野寺御預なり、此御役宅は、小路を隔て、西の方にあり、案に、白山御殿を廢せられしは、正徳三年の事といへり、御藥園と成しは、それより後に始りしならむ、

〔府内備考五御曲輪内〕御藥園七ヶ所

一は九段坂の傍に在り、當所は元御用屋敷にて、御役宅など建立せし地なりしが、寛政四年七月燒失の後、火除植物場と成り、同七年より御藥園と成れり、三ヶ所は、一番町御堀端に並びあり、二ヶ所は三番町に在り、以上五ヶ所も、寛政四年火災の後、御勘定奉行持火除植物場と成り、同き七年澀江長伯御預りの御藥園と成れり、一は蛙ヶ原にあり、こは昔より火除の原にて、大的場となせし處なるを、最後に御藥園に定められしなり、寛政七年四月十九日、澀江長伯が御預りと成し